

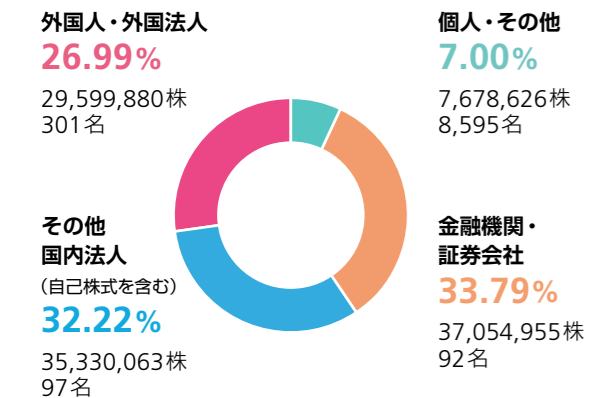
株式の状況

(2019年3月31日現在)

発行済株式総数 109,663,524株

株主総数 9,085名

所有者別分布状況



大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
大日本印刷株式会社	20,727	20.65
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	10,450	10.41
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	8,820	8.78
農林中央金庫	4,653	4.63
三井物産株式会社	2,448	2.43
GOVERNMENT OF NORWAY	2,139	2.13
日本ユニシス従業員持株会	1,821	1.81
ANAホールディングス株式会社	1,794	1.78
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140040	1,355	1.35
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・三菱電機株式会社口)	1,271	1.26

- 株主数は千株未満を切り捨てて表示しています。
- 当社は自己株式9,314,175株を保有していますが、当該株式には議決権がないため、上記大株主からは除外しています。
- 持株比率は、自己株式を控除して計算し、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会および期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
株主名簿管理人 および特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00～17:00 (土日祝日を除く)
単元株式数	100株
公告方法	電子公告 https://www.unisys.co.jp/com/notification/ ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部 (証券コード8056)

- 証券会社に口座を開設されている株主様が、ご住所等の変更や単元未満株式の買取その他の各種お手続きを希望される場合は、口座をお持ちの証券会社にお申し出ください。
- 特別口座で管理されている株式についての各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行にお申し出ください。

- 株式等の税務関係のお手続きに関しては、マイナンバーのお届出が必要です。
- お届出が済んでいない株主様は、お取引のある証券会社等へマイナンバーのお届出をお願いいたします。

本冊子に記載の会社名、商品名およびシステム名は、各社の商標または登録商標です。
Copyright © 2019 Nihon Unisys, Ltd. All rights reserved.



Forest Stewardship Council® (森林管理協議会) の基準に基づき認証をされた、適切に管理された森林からの材料およびその他の管理された供給源からの材料を含む FSC® 認証紙を使用しています。



印刷時に、VOC (揮発性有機化合物) などを含まぬ湿水が不要となる水なし印刷を採用し、大気保全に配慮しています。



石油系溶剤の一部を植物油に置き換えたベジタブルインキを使用し、VOC (揮発性有機化合物) を削減し、大気保全に配慮しています。



ユニバーサルデザイン (UD) の考え方に基づき、より多くの人に見やすく読みまがえにくいデザインの文字を採用しています。

UNISYS 日本ユニシス株式会社

ごあいさつ



株主通信

第75期 報告書

2018年4月1日～2019年3月31日

株主のみなさまにおかれましては、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

日本ユニシスグループは、2019年3月期からスタートした中期経営計画「Foresight in sight 2020」において、業種・業態の垣根を越えたビジネスエコシステムを創る中核となり、社会課題を解決していくことをテーマとして事業活動を推進しています。

当社グループは、「持続可能な開発目標 (SDGs)*」の達成に貢献することを意識し、各注力領域を軸とした事業創出ビジネスやICT成長ビジネスに取り組んでいます。そして、新たなビジネスの創出活動やビジネスエコシステムを拡大するなかで、課題先進国といわれる我が国の社会課題の解決と

注力領域を軸とした 事業活動を推進し、さらなる成長と 社会課題の解決を目指します

ともに、当社グループのさらなる成長機会が見えてきました。

そのようななか、中期経営計画初年度となる2019年3月期の業績は、注力領域を中心としたビジネスが拡大した結果、増収増益となり、営業利益、当期純利益ともに過去最高益を更新しました。

今後も当社グループは、「顧客・パートナーと共に社会を豊かにする価値を提供し、社会課題を解決する企業」として、持続的な企業価値の向上を目指します。

株主のみなさまにおかれましては、引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

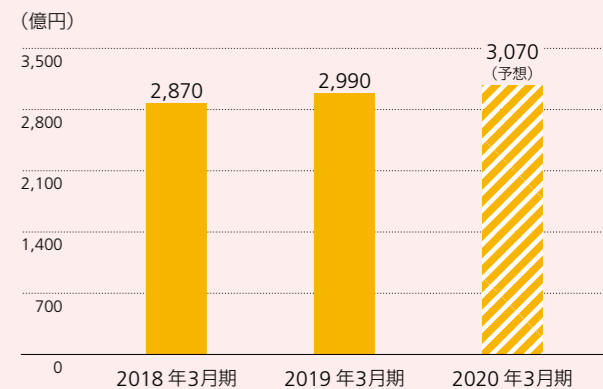
* 持続可能な開発目標 (SDGs): 2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。

2019年6月
代表取締役社長

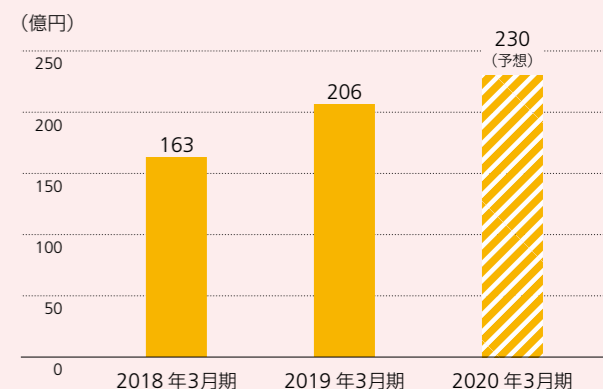
平岡昭良

業績ハイライト

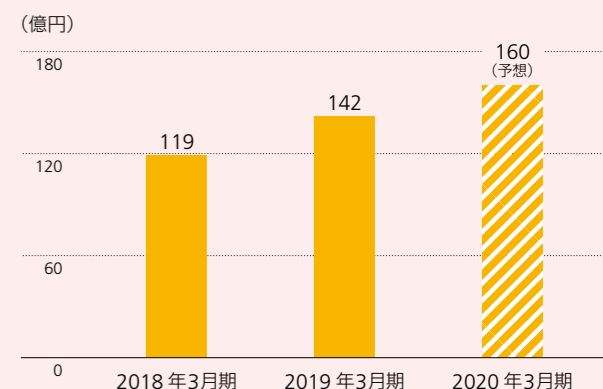
売上高



営業利益



親会社株主に帰属する当期純利益



Foresight in sight

2019年3月期 連結決算のポイント

業績のポイント

売上高は、システムサービス、アウトソーシング売上が堅調に推移した結果、2,990億円(前期比4.2%増)となりました。利益面につきましては、増収や生産性向上に伴い売上総利益が増加した結果、営業利益は206億円(同26.3%増)、当期純利益は142億円(同19.2%増)となりました。

財務のポイント

総資産は、現金及び預金、受取手形及び売掛金の増加等により、前期末比141億円増加の2,114億円となりました。負債は、長期借入金は減少したものの、支払手形及び買掛金や前受金の増加等により、前期末比22億円増加の948億円となりました。純資産は、利益剰余金の増加等により、前期末比119億円増加の1,166億円となり、自己資本比率は前期末より2.0ポイント向上し、54.2%となりました。

2020年3月期 業績予想と配当計画

2020年3月期の売上高は、3,070億円を計画しています。利益面につきましては、営業利益230億円、当期純利益160億円をそれぞれ計画しています。

2020年3月期の配当につきましては、当期純利益160億円を前提に、1株当たり10円増額の年間65円(中間32円50銭、期末32円50銭)を計画しています。

業績の推移

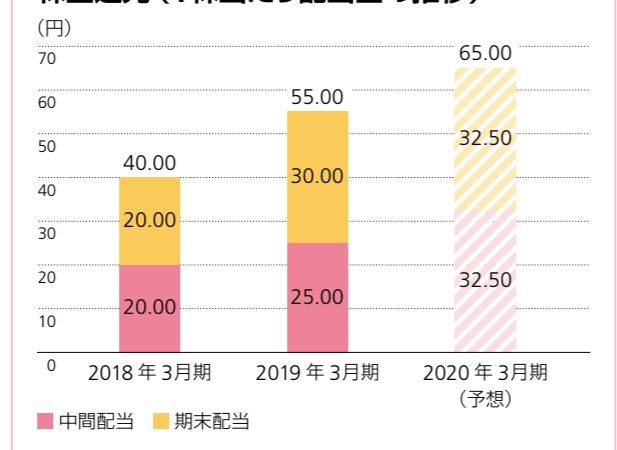
	2018年3月期	2019年3月期
売上高	286,977	299,029
売上総利益	68,803	73,169
販売費及び一般管理費	52,470	52,547
営業利益	16,332	20,622
経常利益	16,092	20,515
親会社株主に帰属する当期純利益	11,949	14,238

財務の推移*

	2018年3月期末	2019年3月期末
流動資産	110,458	128,270
固定資産	86,819	83,151
資産合計	197,278	211,421
流動負債	68,125	74,600
固定負債	24,478	20,206
負債合計	92,604	94,806
純資産合計	104,674	116,615
負債純資産合計	197,278	211,421

*「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を2019年3月期連結会計期間の期首から適用しており、2018年3月期末の各金額については、当該会計基準等を通じて適用した後の金額となっております。

株主還元(1株当たり配当金の推移)



株主通信

トピックス

中期経営計画「Fore sight in sight 2020」の取り組み

日本ユニシスグループは、業種・業態の垣根「持続可能な開発目標(SDGs)」達成への貢献

を越えたビジネスエコシステムを創る中核となり、社会課題を解決していただくことを中期経営計画のテーマとして、意識した事業活動を推進しています。

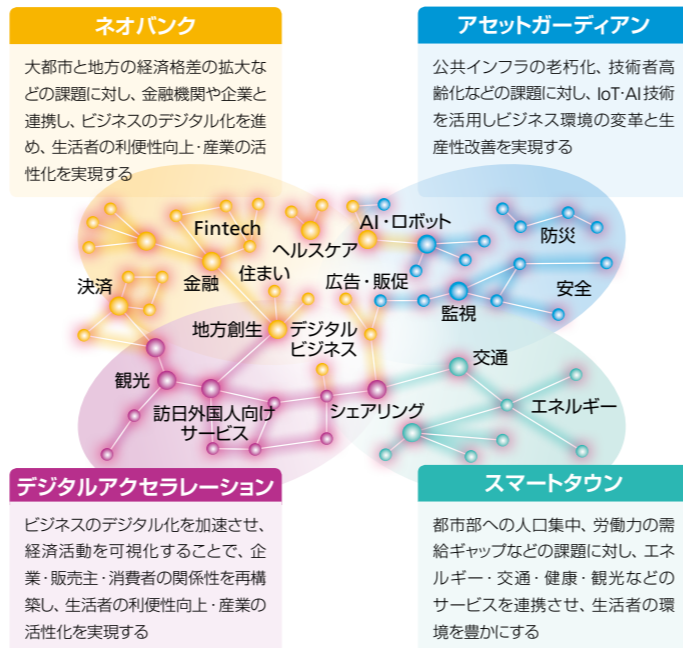


注力領域を軸とした事業活動の推進

新たな市場機会の創出とビジネスエコシステムの拡大による社会課題の解決を目指します

中期経営計画では、社会課題の解決が期待され中長期的成長が見込まれる市場において、顧客・パートナーとともに当社グループのアセットが活用できる4つの領域を注力領域として特定し、これらを軸とした事業活動を推進しています。また、対応する社会課題に対しては、各領域の垣根を越えた横断的な取り組みにより、当社としての新たな市場機会の創出やビジネスエコシステムの拡大を目指しています。

4つの注力領域



スマートタウン アセットガーディアン

>> 注力領域における取り組み

1 持続可能なエネルギー社会

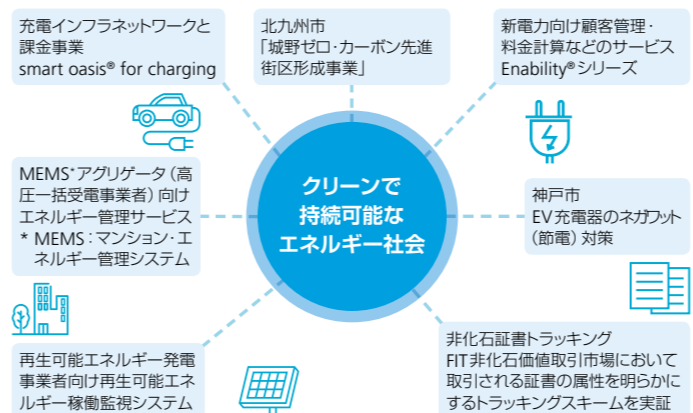
クリーンで持続可能なエネルギー社会の実現に貢献

未来の持続可能なエネルギー社会構築に向け、約10年にわたり電気自動車向け充電インフラビジネスをはじめとするサービスの創出に取り組んでおり、現在ではエネルギー関連ビジネス群として大きく成長しています。

2019年3月期には、経済産業省の「非化石証書*1」の利用価値向上に係る調査事業」の委託を受け、ブロックチェーン*2技術やエネルギーマネジメントに関する知財の活用も踏まえて、トラッキングデータの収集や管理を行っています。

今後もテクノロジーを活用したエネルギーマネジメントの効率化や再生可能エネルギーの普及を通じ、クリーンで持続可能なエネルギー社会の実現に貢献します。

*1 非化石証書：2018年5月より経済産業省は、CO₂(二酸化炭素)を排出しない自然エネルギーなどによる発電設備(非化石電源)より発電された電力の環境価値を証書化し、「非化石証書」として売買できる非化石価値取引市場を創設しました。
*2 ブロックチェーン：分散型台帳技術。情報をブロック単位で保存し、そのブロックを鎖状につなげて保存していくデータベースのこと。



ネオバンク デジタルアクセラレーション アセットガーディアン

>> 注力領域における取り組み

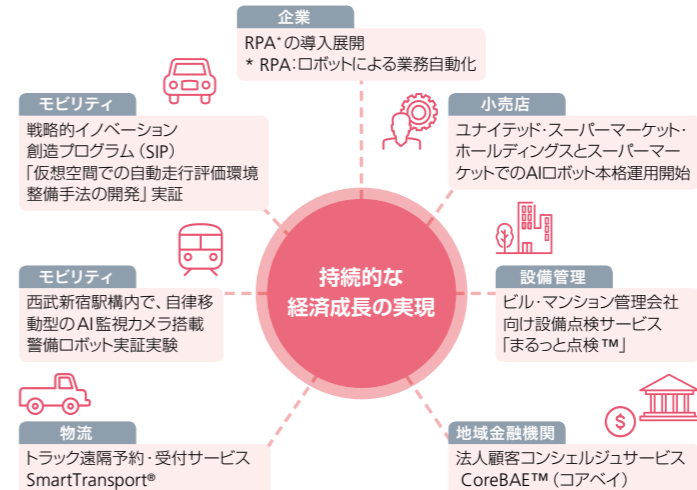
2 労働人口減少社会への対応

持続的な経済成長の実現に向けた労働生産性の向上に貢献

労働人口減少による人手不足問題が多面で深刻化するなか、持続的な経済成長の実現に向けて、さまざまな取り組みを行っています。ロボットを活用した取り組みでは、安全性向上や駅係員の警備・監視業務負荷軽減に向けて、2018年11月に西武新宿駅構内で自律移動型のAI監視カメラを搭載した警備ロボットの実証実験*3を実施しました。また、物流業界においては、ドライバーの待機時間削減や倉庫内作業の効率化など、物流業務を革新する「SmartTransport®」の提供を進めています。

今後も持続的な経済成長の実現に向け、AI、ロボットなどの新技術や当社グループが持つ豊富な知財・知見を活用したサービスの提供を通じ、労働生産性の向上に貢献します。

*3 警備ロボットの実証実験：地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター、アースアイズ株式会社、西武鉄道株式会社との共同実験



お知らせ

「新・ダイバーシティ経営企業100選」に選定

当社は、経済産業省が主催する2018年度「新・ダイバーシティ経営企業100選*」に選定されました。

当社は、ダイバーシティ推進を当社グループの経営上の重要課題と認識し、2013年よりダイバーシティ推進室を設置しています。今回の選定は、多様な人材が能力を発揮しイノベーションを生み出すための風土・組織・人材に関わる改革を通じた成果が評価されました。

当社グループは今後もダイバーシティを推進し、ビジネスエコシステム創出企業として新サービス創出に向けたチャレンジを加速していきます。



*新・ダイバーシティ経営企業100選：経済産業省が、ダイバーシティ推進を経営成果に結びつけている企業の先進的な取り組みを広く紹介し、経済産業大臣表彰を実施しています。

公式スマホアプリ 「CU (Club Unisys)」のご案内

日本ユニシスグループとお客さま、そして社会を結ぶデジタルメディア「CU (Club Unisys)」。最新記事をタイムリーにお届けし、通勤時や外出先でも簡単にチェックできる公式アプリもご用意しています。

スマホで見られるデジタルメディア CU CLUB UNISYS

https://cu.unisys.co.jp/

